

速報 第6号

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成21年度病虫害発生予察速報第6号について

このことについて、病虫害発生予察速報第6号を発表したので送付します。

水 稲

- 1 病虫害名 トビイロウンカ
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生量 並
- 4 発生状況
 - (1) 8月4半旬の定期調査の結果、トビイロウンカの10株当たり払い落とし成幼虫数は、平均1.5頭(平年1.5頭、前年0.03頭)(表)で、平年並で、前年より多い。ただし、一部ほ場では要防除水準を超えている。発生ほ場率は78.3%(平年39.5%、前年5.3%)(表)で、平年、前年より多い。
 - (2) 齢構成は中齢幼虫が60.7%と最も多く(表)、6月29日または7月25日の飛来波に基づく世代であると考えられる。また成虫の短翅型率は71.4%と高く(表)、次世代が急激に増加する恐れがある。
- 5 防除上注意すべき事項
 - (1) これまでに本種を対象とした防除を実施していないほ場では、密度が急激に増加する恐れがあるので、各ほ場の発生密度を確認し、要防除水準を超えている場合は、防除を実施する。
本種の発生密度は、地域やほ場毎に異なるので、それぞれのほ場における発生状況を必ず確認する。
要防除水準：8月下旬 (中老齢幼虫密度) 100株当たり100頭
9月上旬～中旬(老齢幼虫及び成虫の合計密度) 1株当たり 5頭
 - (2) 防除時期は、6月29日または7月25日の飛来波の場合、9月11～15日頃と考えられる(図)。ただし、本年は飛来波が多かったため、ほ場によって飛来時期の差があると考えられるので、発生量をほ場毎に確認して防除を行う。
 - (3) 1か月予報によれば、向こう1か月は平年と同様に晴天日が多く、気温は平年並と予想されており、本種の発生を抑制する気象条件はない。
 - (4) 防除に当たっては本種の生息部位である株元まで薬剤が到達するよう留意する。
 - (5) 防除薬剤については、「平成21年度普通作病虫害・雑草防除の手引き」を参照する。
 - (6) 防除にあたっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散(ドリフト)防止対策の徹底を図る。

